

知的障がい者競技支援を

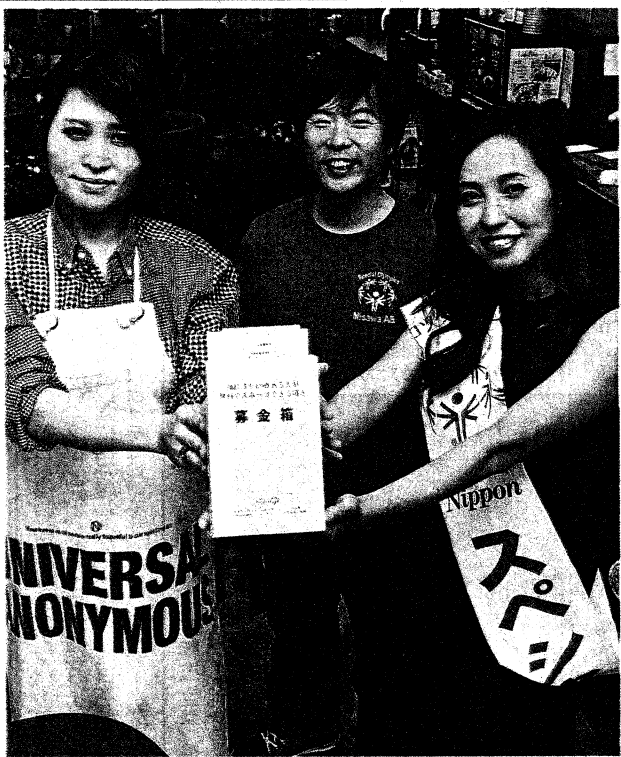
スポーツ団体「SON青森」

ネット、募金で資金集め

知的障がいのある人たちのためのスポーツ団体「スペシャルオリンピックス日本・青森」(SON青森)は、同団体のプログラム参加者が、経済的理由で競技継続を断念することがないよう、半年間無料で競技を継続できるようにするための資金を集めている。担当の竹洞兼視さん(37)「八戸市」は「社会参加する場を途切れず提供できるようにしていきたい」と支援を呼び掛ける。(新村菜穂)

同団体は青森、八戸、弘前の3地区に支部があり、ボランティアのコーチの下、知的障がいがある人たちが水泳、スケート、バスケットボールなどの競技に取り組んでいる。

2004年の設立から今年で12年目となり、参加者が家族の高齢化や死去で、金銭面の理由から通えなくなる問題が顕在化。施設利用費などの経費を集め、10月から来年4月まで、無料で競技を継続できるように



「デリ・カフェ・ペルチ」で募金箱を持ち支援を呼び掛ける高橋さん㊟、竹洞さん㊟、松坂さん

しようと、ネット経由で資金調達するクラウドファンディング(CF)と、三八地区の約10店舗で行う募金の実施を決めた。

竹洞さんは「スポーツには、身ぶり手ぶりだけでなく、心との触れ合いがある。友人をつくり、健康を維持する習慣を続けてもらいたい」と活動の重要性を訴える。

ボランティア不足で資金集めなどに人手を割けない事情もあったが、ミス・ユニバース・ジャパン青森大会2016ファイナリストの高橋真慧さん(27)「八戸市」が9月から、人脈を生かして同団体の広報に取り組んでいる。同市の「デリ・カフェ・ペルチ」オーナー松坂直子さん(35)「八戸市」は「募金箱設置の協力を得た。弟(26)が水泳のプログラムに参加している高橋さんは「弟が少しずつ泳ぎが上達しているのを見るとうれしい。家族同士も交流できるすてきな場所。活動をもっと広めていきたい」と語る。

CFの募集金額は無料枠20人分に当たる46万円まで、達成できなければ全額返還となる。CFは10月17日まで、募金が同12日まで。問い合わせは同団体事務局の青森大学内宮川愛子研究室

(電話)080・18333・55009